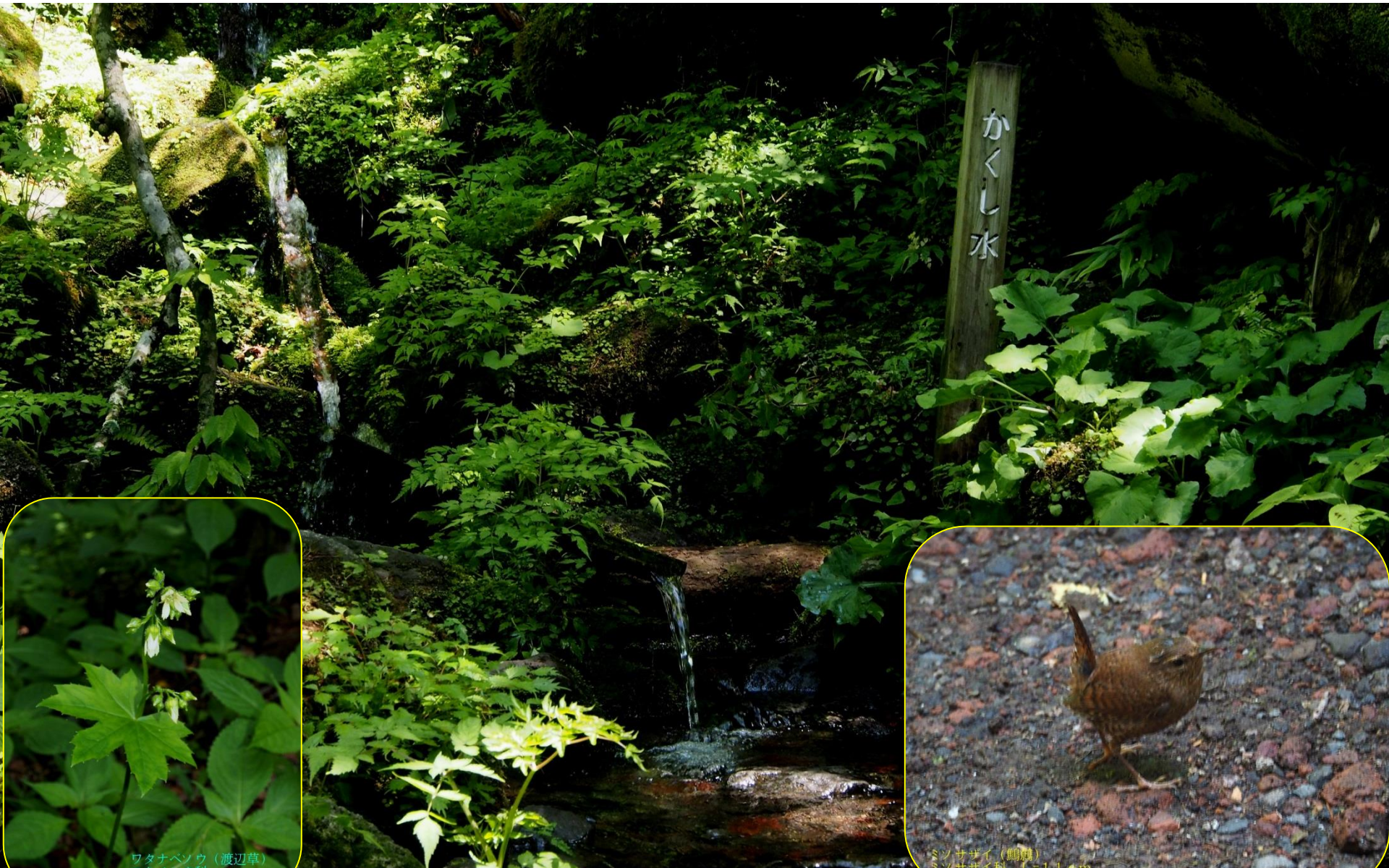
2015.06.12-2

黒岳原生林のワタナベソウ、ミソサザイ



ワタナベソウ（渡辺草）

ミソサザイ（鷦鷯）

平治岳（ひいじだけ）
１６４３ｍ
12:13 男池（おいけ）駐車場８７０ｍ

きびだんご

カヤキ

アオゲラ（緑啄木鳥）　キツツキ科　Ｌ=２９ｃｍ

クリーム色の花と大きな葉が特徴で、四国の愛媛・高知県、九州に分布する。
発見者である高知県の教員・植物採集家であった
渡辺協（わたなべ　なこう）氏の名に因んでいる。

北東アジアと日本に分布し、
日本では、北海道、本州、四国、九州
の山地から亜高山帯にかけての林内
や湿った草地に分布する。
茎にジエルビン、ベラトリン、プロトベ
ラトミンなどのアルカロイドを含む。
根茎は白藜蘆根（びゃくりろこん）と呼
ばれ血圧降下剤として用いられたが、
催吐作用や強い毒性があるので現在
では用いられない。また、
東雲草（しののめそう）の名で殺虫剤
としても使われた。
芽生えの姿が、山菜のオオバギボウ
シ（ウルイ）やギョウジャニンニクとよく
似ているため、毎年のように誤食して
中毒する事例がある。血管拡張作用
があるため血圧低下を引き起こし、
重症例では意識喪失し
死亡するケースもある。
（出典：Wikipedia）

日本原産の薬用植物。高さは50-80cmほどになる。葉は5小葉で構成される掌状複葉で、茎に3-5枚輪生する。花期は6-8月で、茎の先端に球状に黄緑色の小さい花を多数つける。秋に赤い果実をつける。節くれ立った根の形状から、**チクセツニンジン**（竹節人参）とも呼ばれる。日本では北海道、本州、四国、九州に分布し、山地の林内に自生する。

中国・四川省にも産するといわれるが、本当に同じ植物であるかどうかは、いまだ結論が出ていない。根茎を湯通しして乾燥したものが生薬チクセツニンジン（竹節人参）であり、健胃、去痰薬として用いられる。江戸時代に生薬ニンジンの代用として用いられた。

葉の形がトチノキの葉に似ているのが名の由来。

解熱・去痰、健胃薬として利用される。局所刺激作用があることから、育毛剤に配合されることもある。

（出典：Wikipedia）

ツクバネソウ（衝羽根草）ユリ科

ユキザサ（雪笹）　ユリ科

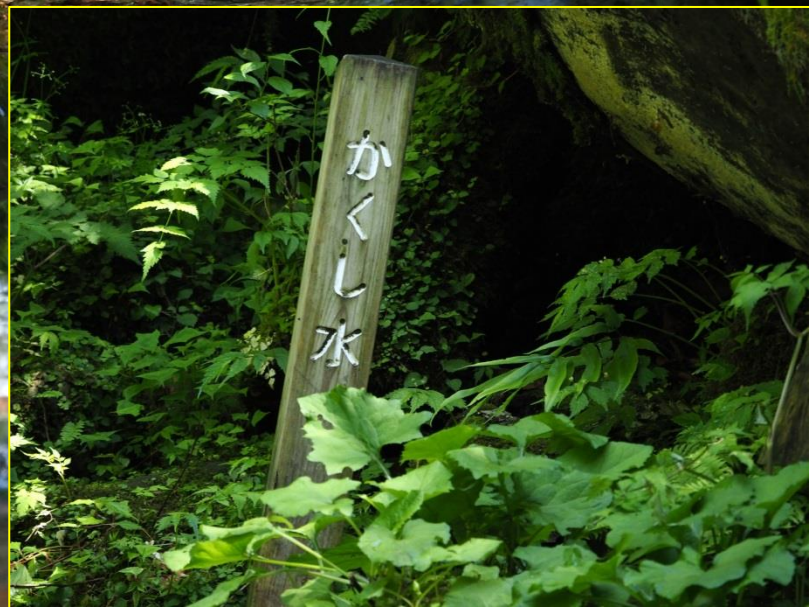
本州の岩手県以南から九州にかけての太平洋側に分布し、
山地の木陰などに生えるムラサキ科の多年草。

サワルリソウ（沢瑠璃草）
ムラサキ科

花の色は、白色～青紫色

サワルリソウ（沢瑠璃草）
ムラサキ科

サワルリソウ（沢瑠璃草）
ムラサキ科


かくし水

ミソサザイ（鷦鷯）
ミソサザイ科　Ｌ=１１ｃｍ

ミソサザイ（鷦鷯）ミソサザイ科　L=１１ｃｍ

黒岳１５８７ｍ
大船山（たいせんざん）
１７８６ｍ
平治岳（ひいじだけ）
１６４３ｍ